

研 究 報 告 書

学 校 名 沖縄県立嘉手納高等学校

1 研究主題

「SDGs 達成に向けた持続可能な教育実践の研究と実践」

2 主題設定の理由

下記の内容について、取組を強化するために主題を設定した。

- 1) 本研究指定をカリキュラム・マネジメントの中に位置づけ、全職員体制で取り組む。
- 2) ユネスコスクール・キャンディデート校として、多様な経験・体験を通して、心の繋がる異文化交流を持続・継続する
- 3) 各授業、特別活動、課外活動の中で「SDGs」の観点を導入した授業を実践する。
- 4) 各授業、特別活動、課外活動の中で地域と連携した取組を実践する。

3 研究実践の主な内容

(1) 研究方針

総合学科の特性を生かし、学校全体として SDGs を念頭において授業を組み立て、更なる地域や各種団体との連携を模索し、持続可能な教育活動の開発を行う。

(2) 研究組織

全体的な企画運営は、総合学科研究部を中心に取り組む。
授業などの取組などは、系列委員会で取り組む。

(3) 研究内容

- ① 福島県研修旅行
- ② SDGs 講話隊
- ③ SDGs パスポートの活用
- ④ 防災訓練（地域の老人ホームへの協力）
- ⑤ 日韓文化交流基金主催の研修への参加
- ⑥ 嘉手納町彩りプロジェクトへの参加
- ⑦ ミニデイサービス
- ⑧ 平和学習
- ⑨ 総合学科発表会

(4) 研究実践例

① 福島県研修旅行

夏休み期間で事前学習を行い、2025年8月に3泊4日で、福島県相馬市や双葉町の被災地を視察研修、またふたば未来学園高校の生徒との交流会を行った。東日本大震災後の被災地の様子を見学し、どのように復興に取り組んでいるか、現地を見学し多くの学びを得た。話で聞くよりも実際に見て感じることは多く、最新の防災施設の見学などは生徒達の視野を広げる機会となった。

その後、研修の報告として、12月に開催した「嘉手納高校総合学科発表会」にて、展示と舞台での発表を行った。また長野県SDGsアワードにて、オンラインで活動報告を行い、質疑応答や交流を行った。



② SDGs 講話隊

嘉手納町の屋良小学校にて「正しく付き合おう ネット・スマホの世界」をテーマに、授業1コマ分の講話を行った。スライドや授業展開方法についてグループで考え、模擬授業を行ってどのように話せば伝わるかなど試行錯誤しながら本番を迎えた。当日は機器トラブルもあったが協力して対応し、小学生の反応も良く、質問の時間が足りなくなるほど盛り上がった授業となった。

授業後は、「インターネットの使い方について考えた」「他の内容でも講話してほしい」などの感想があった。講師として参加した生徒は、「緊張したけど小学生が反応してくれて楽しかった」「もっと練習しておけばよかった」などの声があり、またやりたいと意気込みを見せていた。



③ SDGs パスポートの活用

全校生徒へSDGsパスポートを配布し、ボランティア活動を推進している。夏休み自由研究教室(小学生向け)や、地域の祭りボランティア、競技大会ボランティアなどの活動に参加する生徒が多く、活用が進んでいる。



④ 防災訓練（地域の老人ホームへ協力）

福島研修に参加した生徒は、学習してきたことや気づきを生かし、防災の日に行われる地域の防災訓練に参加した。老人ホームでの訓練を体験し、避難の際の課題や現状について施設の方から話しを聞き、自分なりの解決策をまとめた。今後も地域と連携して防災について取り組みを続けていく。



⑤ 日韓文化交流基金主催の研修への参加

本校より12名の生徒が参加し、韓国の文化を体験し学習成果を発表した。発表は韓国語と日本語で行い、韓国での交流の様子を動画にまとめて紹介するなど、研修内容を分かりやすく伝えていた。

2月には韓国から生徒が来沖し、授業や交流を行う予定である。



⑥ 嘉手納町彩りプロジェクトへの参加

嘉手納町のプロジェクトに参加し地域の美化活動を行っている。学校付近の公園の清掃活動や花の苗を植えて緑化するなど、系列授業や学年行事として取り組んでいる。今後も地域連携の一環としてだけでなく、地域へ貢献するという面でも取組を続けていく予定である。



⑦ ミニデイサービス

福祉系列授業を受けている2・3年生が、町内のデイサービスにて、ミニデイサービスを行った。地域の高齢者との関わりを通して、コミュニケーションの方法や基本的な支援の在り方を学び、一人ひとりの視野を広げて共に生きる社会を形成する力を養っていくことを目的としている。

授業でも高齢者や障害者の立場から考える視点を身につけるため、体験型の授業を行い、実践を通じた気づきや学習によって学習内容を自分事にする工夫を行っている。



⑧ 平和学習

平和学習は、かでな文化センターで行う全校生徒対象の取組、地域系列の授業で地域課題を学習しながら平和について考える取組、希望制で他校の生徒と取り組むプログラムへの参加など多くの機会があった。嘉手納基地が近いという地理的条件があり、基地問題を地域課題と結びつけやすいという強みを生かし、生徒達は様々な視点から平和について考える機会となっている。

福島研修においても嘉手納基地の課題を福島県の状況と関連させて考え、防災や地域課題の解決に向けて探究学習が継続している。



⑨ 総合学科発表会

12月には、これまでの学習の成果を外部へ発信するために総合学科発表会を行った。各系列授業で取り組んできたことを発表や展示作品としてまとめ、保護者や地域の方々へ発信する姿は堂々としており、達成感を感じている様子が見られた。総合学科として様々な授業を受けることができるという学校の特色を外部へ紹介できる大きな取組の1つであり、発表会の経験を通して生徒達が自信につなげる重要な場となっている。

⑩ その他

地域の小学生を対象にした「夏休み自由研究 in 嘉手納高校」、国際人文系列の授業での「カデナハイスクールの生徒との交流会」なども毎年行っている。



4 研究実践の成果と課題

〔成果〕①研究方針で「地域や各種団体との連携を模索し、持続可能な教育活動」とし、毎年無理なく取り組めるよう方法を改善しながら、持続可能な教育実践を行うことができた。

②どの活動も、SDGsの理念が定着して、生徒も職員も肩肘を張ることなく、自然体で行うことができた。

〔課題〕①SDGsの理念を実現するには、ただ取り組むだけではなく、取組内容を評価し改善しながら持続することが必要だと考える。形式的な取組にならないように職員、生徒が自分たちの活動内容を見直す機会を設け、より良い取組になるよう議論していく必要がある。